

ことぶき薬局 TEL055(977)6024 FAX055(984)0770 たまち薬局 TEL054(251)1678 FAX054(251)1685
 ひまわり薬局 TEL053(463)4312 FAX053(460)4612 みかん薬局 TEL053(584)2230 FAX053(584)2240

特集 子供がかかりやすい病気(感染症を中心に)

小児がかかりやすい病気の半数以上は、感染症といわれています。小児感染症の特徴として、

年齢によって羅漢しやすい感染症が異なる、季節によって流行する感染症が異なる、病状の進行が速いなどが挙げられます。また感染症で最も多いのは呼吸器感染症(上気道炎、気管支炎等)です。その次に多いのが胃腸炎(嘔吐下痢症等)です。その他、流行性耳下腺炎(おたふく)、水痘(水ぼうそう)、麻疹、風疹などの伝染性疾患があります。

😊 季節別にみた疾患

春	胃腸炎(ロタV)、普通感冒(ライノV・パラインフルエンザV)、流行性耳下腺炎(ムンプスV)、麻疹、風疹
夏	手足口病・ヘルパンギーナ(エンテロV・コクサッキーV)、無菌性髄膜炎(エコーV)、夏かぜ・プール熱(アデノV)、りんご病(ヒトパルボV)、とびひ(黄色ブドウ球菌)、胃腸炎
秋	普通感冒(ライノV)、感染性胃腸炎(SRSV)、細気管支炎(RSV)、クループ症候群(パラインフルエンザV)、マイコプラズマ肺炎
冬	インフルエンザ(A型 B型)、胃腸炎(ロタV)、溶連菌感染症、水痘

V:ウイルス

😊 予防法

予防接種を済ませましょう

流行のピーク時はなるべく人ごみを避けましょう

手洗い・うがいに努めましょう 生活リズムをくずさないようにしましょう

季節よりみたウイルス感染

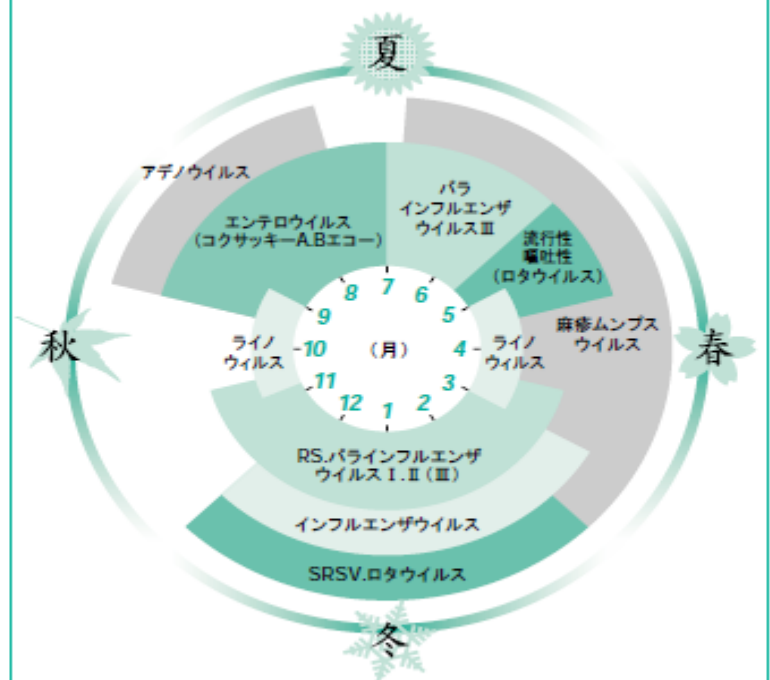
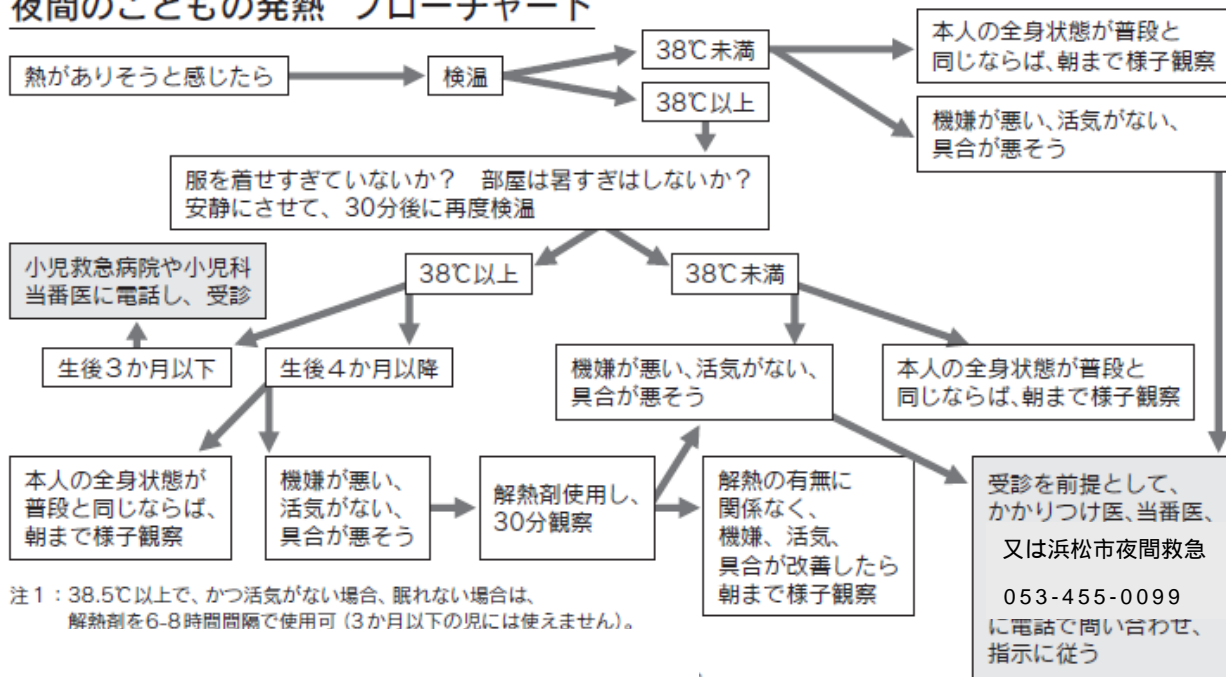


図 小児感染症の流行カレンダー
 (「小児科」43巻別冊より抜粋)

☺ もし夜間に発症してしまったら（発熱を例に）

夜間のこどもの発熱 フローチャート



上記は、全てに当てはまるものではありません。あくまで目安です。

☺ 治療の考え方

小児感染症の殆ど、特に「かぜ」の90%はウイルス感染によります。従って、症状に合わせた対症療法（総合感冒薬、咳止め、解熱剤など）となります。抗生剤は主に細菌感染に用いますので殆どの「かぜ」には無効です。しかし、一部のウイルス感染症に有効な抗ウイルス剤があります（水ぼうそうなど）。逆に、「溶連菌感染」や「とびひ」などの細菌感染症には抗生剤が有効となります。ウイルス感染でも二次感染防止の目的で抗生剤が使用される場合もあります。

解熱剤について：感染症による発熱は、身体がウイルスや細菌と闘っている証拠です。不必要に熱を下げることは慎むべきです。安易な解熱剤（アセトアミノフェン）使用は避けましょう。

医療ネットしずおかを活用しましょう！！

医療ネットしずおか

検 索

子供の状態に合った項目をチェックすると、今どう対応すればいいかの目安が表示されます。（PC サイト）